個別ゼミ概要（WEB掲示用）

作成日：２０２４年３月４日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」			
ゼミ名	国際関係			
講師幹事名	鈴木　庸一		大学教員	全学共通教育センター長　南　裕子
学　期	R6(2024)年 春夏 ・ 秋冬	**開講時間**	水曜　４～５時限	

＜過去の受講生の声＞

- 教科書では決して学ぶことができないような、国連（安保理）での実際の駆け引きの様子を知れたり、外交現場の人が実際に考えている今後の日本の安全保障について学ぶことができたりと、大変貴重な時間でした。また、私たちの将来に向けた格言もたくさんいただき、胸にしまって今後生きていこうと思いました。

- 国連における外交官の活動というのはあまり触れたことがないトピックだったので総じて興味深く感じました。他国の思惑などを考慮しながら、いかに自国の利益になるような外交をするか考えるのも、外交官の仕事としての魅力というか、面白さなのだと思います。国連を機能不全だと短絡的に見なすのではなく、より良い在り方を考察して、よりよい組織へと改善させていくことを考えることの重要性を再認識しました。

- 自分の中東についての知識の乏しさを身に染みて感じました。彼らの「常識」が日本にずっと住んでいる自分とはかけ離れており、彼らのことを完全に理解するのは難しいと思いました。また、イスラームという同一の宗教のなかでも多様な派があり、原始キリスト教なども入り交じる宗教の多様性、これが国家の統制に宗教を利用している国家にとって大変な問題でもあります。一方で、主に石油、あるいは安全保障上の問題で世界との相互の影響が激しい地域でもあって、無視できない地域でもあります。国際社会における中東地域の国々の具体的な位置づけや動向を知ることができました。

- 今回の講義ではざっくばらんに外務省の業務に関してなどお話しいただき、誠にありがとうございました。また、実際にグループワークといった形でのスピーチ提言に関しては今後官民問わず働く中においての良い経験であったと感じます。

- ウクライナの歴史的背景について初めて学ぶ機会となりました。特に、宗教的な構造がいかに今日の情勢に引き継がれているのかということが分かりました。

- ウクライナという国のことは今まで全く知る機会がなかったか、あったとしてもスルーしてきていたかです。とにかく今までの私にとって重要ではなかったということです。しかし確かにウクライナという国はそこに存在していて、重要な役割を担っていたのだということを今回の講義で学びました。そのきっかけが侵略戦争というのは残念でなりません。反省の念とともに、今後は世界の自分がまだ知らないことにも自発的に目を向けてみようと思いました。

- 今回の講義で最も印象深かったお話は、外交官はたとえ時の政府の方針に反対してでも信念を貫くべきとされていることでした。先入的な官僚のイメージ–政府の指示をただ実行する集団、陰で政府を操っている裏の権力者–とは全く違う、使命ある仕事だということが分かりました。「歴史的に見てこれが正しいことかどうか」という判断をするときいて、自分もそんな人になりたいなと思いました。